

浜松でかなえた、理想の暮らし

～柳平 育夫 さん、加枝 さん～

【東京都大田区→中央区村櫛町】

2021(令和3)年11月に東京都大田区から中央区村櫛町へ移住し、浜松での暮らし「ハマライフ」を送っている柳平育夫さん、加枝さんにお話を伺いました。

― 移住のきっかけは

育夫さん 会社を役職定年で退職したことをきっかけに、セカンドライフとして移住を考え始めました。当時住んでいた家が築50年以上で耐震性に不安があったこともきっかけの一つです。会社員として働いていた時は、仕事に精一杯の毎日で、まさか自分が移住するとは思っていませんでした。

― 浜松を選んだ理由は

育夫さん 「日本の中心」で各地へアクセスしやすいことと、美しい景観が決め手です。東京では、出掛けるたびに渋滞に巻き込まれ、移動そのものが大きな負担でした。その点、浜松は交通の便が良いイメージがありました。また、以前から「浜名湖サーブスエリア」に立ち寄る機会が多く、そこから眺める浜名湖の美しい景観に心を惹かれ、「ここは非常に心地良く、住みやすそうなところだな」と思っていました。

加枝さん 私は趣味のガーデニングや家庭菜園をゆつくり楽しみたいと思っていたので、「雪が降ら



家庭菜園を楽しむ加枝さん
(育夫さん撮影)

ないところならどこでも」と言っていました。温暖な気候の浜松はうってつけの場所でしたね。

― 住む場所はどのように決めましたか

育夫さん 地域はあまり考えずに、物件を先に探して、住む場所を決めました。ネットで理想の物件を見つけて、「ここだ!」と。浜松移住コーディネーターに連絡したら、すぐ現地に見に行ってくれて。物件の様子だけでなく、地域のこと、いろいろなことを教えてくれたので、結局自分たちは現地に行かずに移住を決めてしまいました(笑)。

― 浜松での暮らしはとうですか

加枝さん 山も川も海も、車を少し走らせれば何でもある。なんて贅沢なんだろうと思います。天気の良い日は、朝早く起きて、館山寺や村櫛のビーチで浜名湖を眺めながらコーヒーを飲んだり、朝ごはんを食べたり…。朝は人も少ないので、まるでプライベートビーチのような気分です。過ごせます。
育夫さん 東京にいた頃の趣味は

釣りでしたが、今は毎日の「ドライブ」が趣味になりました。買い物に行く道中にも、浜名湖や富士山が見えるので、特別どこかへ出掛けなくても、日常の景色だけで心が豊かになるのを感じています。

― 地域の人たちとの関係はどうですか

加枝さん 皆さん本当に優しく、ちょうどいい距離感で見守ってくれています。野菜作りで失敗した時も、近所さんが誰となく声をかけて教えてくれたり、玉ネギの苗を分けてくれたり。自然体で接してくれるので居心地が良いです。

― 移住を考えている人へメッセージをお願いします

育夫さん 私の感覚では、「引越し」と「移住」は少し違います。ただ住む場所を変えるだけでなく、そこで自分自身がどう暮らしたいのか、どう楽しめるか、ということを考えることが大切だと思います。移住コーディネーターなど、現地のこと分かる人にいろいろ聞くのはすごく大事だと思います。
加枝さん 不安もあるかもしれませんが、「そこにやって、楽しめそう!」と思ったなら、チャレンジすることをすすめします。きつと、今より楽しくて、すてきな生活が待っていると思います。

●「わたしのハマライフ」のこれまでのインタビュー風景を動画で視聴できます。

詳しくはYouTube「ハマライフチャンネル」をご覧ください

●「わたしのハマライフ」は隔月で掲載します

市HP▶

ハマライフチャンネル

検索

